

テーマ1～初めての少額訴訟～

第1 事件の概略

1 とある劇団からの依頼

予定していた公演の稽古期間中に、出演予定だった相手方（以下「被告」）から出演辞退の申し出があった。

当該劇団（以下「原告」）は、チケットノルマ制をとっており、役者のチケットノルマ代をもって公演運営の資金としているため、突然の降板で当該代金が入ってこないとなると当該公演を開催するのに支障がある。そのため、出演者とは出演契約を交わし、自己都合で辞退した場合には、当初の予定どおりのチケットノルマ代及びその他の諸経費の損害金の予定として、金20万円の賠償予定の契約をしている。

そこで、自己都合で辞退した相手方に対し、損害金の請求をしたい。

◎チケットノルマ制とは？

2 時系列

(1)2017. 8. 14

舞台出演のオーディションが行われ被告は合格。出演契約を交わす。

(2)2017. 9. 27

被告が公演を辞退する旨申し出る。原告は被告に対し、契約があるので少なくともノルマ代は支払うように伝える。

(3)2017. 10. 4～2017. 10. 9

公演本番

(4)2017. 10

被告代理人弁護士から原告に対し内容証明郵便が送られてくる。内容としては原告に対して金銭を支払う義務はない旨の通知。

(5)2017. 11

劇団代表者から当方に依頼があり受任

(6)2017. 12. 6

少額訴訟提起

(7)2018. 1. 5

答弁書のファクシミリ受領

(8)2018. 1. 10

期日当日に第1準備書面提出

第2 起案・訴状作成

1 法人格なき社団か否か

2 原告の記載の仕方

3 賠償額の予定（民法420条）

第3 訴え提起から期日まで

想定外1 まさかこの金額で弁護士が立ってくるとは！！

(1)答弁書の内容

(2)争点

想定外2 原告に有利な展開になると思い込んでいた！！

(1)第1準備書面の内容について

(2)第1準備書面に対する相手方の主張

(3)立証責任

想定外3

法廷でのその場の対応力が全くなかった！！

(1)裁判官（又は司法委員）からの質問

(2)裁判官からの強烈的な和解の勧め

第4 結末及び反省点

(1) 和解成立

(2)準備次第で結末に差がでる業務

テーマ2～多数相続人の遺産分割調停～

第1 事件の概略

1 とある行政書士からの依頼

とある行政書士が相続人から依頼を受け、相続人調査をしたところ、相続人が31名いたので先生引き継いでくださいと言われ引き継いじやった感じ。

登記地目は墓地、現況は山林、評価額1,800円だけどどうしても何とかしておきたいという方だった。

2 手続きの流れ

(1) 依頼者の知らないような人も多数いたので遺産分割調停一択！

(2) 各相続人にお手紙を出す（資料参照）

いきなり家裁からの書類が届くと相続人が驚くので、先にお知らせする。
調停から抜ける方法と、抜ける場合の注意点を説明する。

※相手方全員が放棄しないように注意！

(3) 遺産分割調停申立て

(4) 法務局に照会

同時に家裁とも連携を取る。
家裁にもよるが、下妻は入念に打合せできた。

3 論点

今回のケースは、被相続人の死亡時点で最終の相続人が生まれてなかったのがポイントだった。

被相続人の死亡時点で相続人が生まれている場合には、違う調停案も考えられるかも？

～その他思い出深い案件～

1 地上権増額請求

- ・ 翌深いおっさんが依頼者
- ・ 相手方代理人に東京会の割と有名な司法書士がついた。

2 建物明渡請求等の被告

- ・ 地裁だったので、答弁書の作成業務でかかわり、裁判所まで同行した。
- ・ 相手方弁護士が話しかけてきた。

3 2年位分断してる過払金請求訴訟

- ・ 3回くらい期日がもうけられて、最後は和解になった。

4 未成年者の相続放棄

- ・ 母親が殺人事件の被害者だった。その娘の相続放棄。
- ・ 未成年後見人選任申立てからのスタート。
- ・ 相続放棄は法テラスを利用した。